

建設コープおおさか

〒550-0012 大阪府大阪市西区立売堀 1-8-9

http://www.kensetu-co-op.com 電話:06-6533-1675

大型台風を経て考えたい、工務店のBCP

“平時から災害時のさまざまな事態を想定する”

9月に関東地方を襲った台風15号では、広範囲で停電が起き、固定電話や携帯電話も使えない状態が発生した。このため、ブルーシート掛けや修理を行う以前に、顧客と連絡すら取り合えない状態になった。一方で、一般の被災者からブルーシート掛けの要望が殺到し、多くの工務店、建設会社がパニック状態に。顧客への対応を優先すべきところ、次から次へと寄せられる要請。

更に、災害に乗じて工事内容に見合わない高額料金を請求する悪質業者が出回ったせいで、正当な修理費用さえ請求しにくい状況も生まれた。

非常どきに適切な顧客対応を遂行するためには、さまざまな事態を想定した「BCP」を策定しておくことが重要である。

BCPとは、予期せぬ災害や事故などに見舞われても、長期中断が許されない事業を早期に再開できるようにしておくための計画を指す。(事業継続計画)

被災した顧客への対応

工務店が優先的に継続すべき、あるいは早期に復旧すべき事業とは？

地域の工務店は、被災した顧客への対応が挙げられる。

仮に何の対応もしなければ、その顧客は家屋が被災した状態で生活が困難な状況に陥り、他の工務店に依頼し修理をしてもらうことになり、自社の大切な顧客を失うことになる。自社も被災する中で「顧客への対応」を継続するためには、連絡の取れないOB客を訪問する体制を構築しておく。顧客の被害状況を診断できる評価シートを用意しておく。すぐに修繕に取り掛かれなくても、OB対応マニュアルを作っておくことで、いつでも対応が出来る。

平時の業務の中で、災害時何を優先すべきかイメージし、必要と思われるモノ、コト、を準備しておくことが大切である。



11月の行事報告

第6回理事会開催

11月19日(火)18:30~20:00

建設コープおおさか会議室にて

【報告】

- ・理事会議事録報告
- ・4~10月実績報告等

【議題】

- ・営業活動の件
- ・HPの件
- ・その他

大阪府中小企業団体中央会の

お知らせ

★中小企業のための無料法律

相談会のご案内

法律上の悩みやトラブルはありませんか

場所：マイドームおおさか

日時：2020年1月15日(水)

10:00~17:00

★第4回共済事業セミナー

&異業種交流会

「なぜ日本経済だけが成長できないのか

～アベノミクスの真実～

場所：シティプラザ大阪 2階

日時：2020年2月6日(木)

セミナー 16:00~17:30

交流会 17:30~19:00

お問合せ・お申込みは

大阪府中小企業団体中央会

TEL : 06-6947-4370

FAX : 06-6947-4374

人生の折返し点を過ぎたらそろそろ、

将来の暮らし方考え始めてみませんか？

「人生 100 年時代」という超長寿社会の中では、50 歳を過ぎてようやく折返し点。

子育てや住宅ローンなどから解放され、退職後の楽しく充実したセカンドステージが始まるのもこれからです。

その暮らしのベースとなるのが「住まい」。

アクティブな高齢期の夢のある暮らしを実現し、さらにその次の介護への備えをするのが今です。

リフォームにするか、建て替えるか、住み替えるか、選択肢は様々ですが、これからの暮らし方をしっかりと見据え、明るいシニアライフを実現しましょう。



今の住いに住み続けますか？

それとも住み替えますか？

住まいも築後 20 年も経てばそろそろ老朽化が目立ち始めてきます。建て替えるかそれともリフォームか。また、便利なエリアに住み替える手もあります。決断は早ければ早いほど多くの選択肢を選べ、セカンドライフも充実してきます。

年を重ねても、このままの家で大丈夫と思えますか？

人も住まいも年齢を重ねるうちに老朽化？は進みます。冬の浴室が寒いとヒートショックを起こしたり、日常の動線が複雑だと動くのもおっくうになりがちで、ケガや病気のリスクが高まります。



今のままご自宅に住み続ける場合のことを知ろう。

ご自宅に住み続けるか、それとも住み替えるか、今なら、どちらにも自由を選択できる時間があります。

しかし、思い描いたどおりの将来を実現したいなら、早めの決断が大切になってきます。ご家族だけでなく、子供や孫のライフステージは刻々と変化し続け早ければ早いほど将来の選択肢が多く思い描いた将来が実現できます。

仮に今のままご自宅に住み続ける場合、家とあなたの相性はどうか変化してゆくのでしょうか？

まず、そのことを考えましょう。住まいもあなたと同じように歳をとっていくのですから。

将来、加齢による変化が起こると

今の住いでは危険がいっぱい。

多くの方が「衰えに気づいていない」うちに、年々、身体機能が低下していきます。

通院する人の比率は、加齢により徐々に高くなっていき、65 歳を過ぎると、6 割以上の方が、何らかの病院通いをしています。介護の必要はないけれど、健康不安があって通院しながら自宅で暮らし、日常生活が少しおっくうに感じるという高齢期の暮らしが見えてきます。多くの方が自分の衰えを素直に受け入れられないようですが、備えあれば憂いなしです。

6 割超の方が「自宅に住み続けたい」が、

実は自宅に問題があるのを知っている。

子供が巣立ち、ご夫婦が年を重ねると住まいの老朽化や身体機能低下による住みにくさが次第に目立ってきます。6 割超の人は、車椅子や介助が必要になっても自宅にとどまりたいと考えていますが、その自宅に問題があるとする人が同程度います。温熱環境が良好でなかったり、日常の動線上の段差があると、事故や病気の原因となり、身体機能がさらに低下する恐れがあります。

高齢者の事故の 8 割が住宅内で発生

特に「段差が危険」です。

屋外よりも家の中の方が安全と思いがちですが、実は高齢者の事故の発生場所の 77.1% は住宅内です。特に居室の段差によるつまずきや階段での転倒や転落などが 6 割にものぼります。年を重ねれば重ねるほど過ごす時間が長くなる家の中。将来の事故や病気の原因となる住宅の不具合は予め取り除いておきましょう。

【編集後記】

今年には平成から令和と和暦が変わり、消費税が 8% から 10% になりました。そして、建設コープおおさかと北大阪支部が統合されました。早いもので本年も残すことあとわずかとなりました。組合員の皆様には、一年間大変お世話になり感謝しております。来年もどうぞ宜しくお願い致します。